

# 荒れ野のイエス

マルコ 1 : 9 - 13



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年2月21日

大齋節第1主日

聖アグネス教会にて

「それから、“霊”はイエスを荒野に送り出した。」

マルコ 1:12

主イエスが人々の間で救いの働きを開始される前に、二つのことが必要でした。一つは洗礼を受けること、もう一つは荒野でサタンから誘惑（試練）を受けることです。洗礼と試練あるいは誘惑、この二つを経て初めて、イエスはその働きを開始することができたのです。この二つのことが簡潔に今日の福音書に語られていました。

第1の洗礼は、神とその愛、その臨在を経験することでした。「天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降<sup>くだ</sup>って来るのを御覧になった」（マルコ 1:10）と記されているように、イエスは洗礼において神の霊を受けられました。そして「あなたはわたしの愛する子」（1:11）と呼びかける神の声を聞かれました。洗礼は神の祝福と恵みに満たされる経験でした。

しかしそれに続いて、もうひとつの経験をイエスはなさいます。今度は神不在の経験、あるいは神の沈黙の経験です。荒野にただひとり追いやられて（聖書協会共同訳）、イエスは試練を受けられるのです。

洗礼に続いてこう記されていました。

「それから、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した。」

マルコ 1:12

わたしたちの新共同訳聖書には訳されていないのですが、ここには「すぐに」という言葉が原文にはあります。洗礼の恵みの経験に浸っているわけにはいかなかった。イエスはすぐに厳しい試練にさらされることになったのです。また「送り出した」とありますが、「(“霊”が) 追いやった」あるいは「(荒れ野に) 投げ込んだ」というニュアンスです。

その主語は“霊”です。神の霊です。洗礼においてイエスをご自分の愛する子として呼びかけ、ご自分の愛の命でイエスを包まれた神は、今度はすぐにイエスに別の経験を強いられました。ギリシア語原文のニュアンスはこんな感じです。

「それからすぐに“霊”はイエスを荒れ野に投げ込んだ。」

容赦ない。神のなさることは非常に厳しかったのです。

ここからイエスの命が危機にさらされる荒れ野の 40 日が始まります。しかし注意しておきたいのは、神の霊が、神がそれをなさった。40 日のイエスの危機、試練、耐えがたい苦しみは、しかし神の手の中に、神の計画の中にあった、ということです。

「イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。」 1:13

「そこに」と訳されていますが、原文では「荒れ野に」が繰

り返されていて、「荒れ野」が強調されます。イエスは「荒れ野」に投げ込まれ、「荒野」におられます。慰めるものも励ますものも何もない、荒廃した土地、孤独の世界です。そこにイエスは留められています。

荒れ野の中に 40 日間、イエスはおられる。そこには神の声は聞こえない。聞こえるのはサタン声です。だれひとりいない荒れ野の孤独の中で、イエスはサタンの攻撃にさらされる。イエスを誘惑して絶望させ、神の道から引き離そうとする抗しがたい力が襲いかかり、イエスは苦しめられます。

これは暗黒の時です。神は沈黙しておられる。まるで神には人を救う意志も力もないかのように思われる。サタンの目標は、人を神から引き離し、神の道から逸れさせること。あわよくば人をサタンの道具としてしまうことです。

このような中で神の不在、神の沈黙を経験することは、また自分の無力だけではなく神の無力を——神はわたしを救う力がないかのように——思ってしまうことは、どれほど恐ろしいことでしょうか。

「イエスは四十日間そこに（荒れ野に）とどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。」 1:13

荒れ野の野獣とは何でしょうか。狼か、あるいは蛇も含まれるようです。しかしそれらはイエスを攻撃せず、また天使たちが目には見えなくてもイエスを支えていた。神はおられないかに思えたのですが、それでも神の支えがあったのです。

こうして試練の 40 日が終わります。荒れ野の試みの前と後とでは何かが違うのでしょうか。荒れ野の 40 日を経て、イエスさまに何かが起こったのでしょうか。――イエスは聖霊の力と喜びに満たされたのです。これはマルコ福音書は記していませんが、ルカは記しています（ルカ 4:14）。それだけではありません。主イエスの荒野の 40 日の試練は、わたしたちにとって意味があるのであるのです。

イエスは、神の子として祝福のうちにおられただけでなく、人の子として、人の経験する誘惑、試練、暗黒をご自身が経験された。わたしたち人間とこの世界の闇、暗黒の淵を自ら経験し、しかもそれに打ち勝たれた。イエスは荒れ野の 40 日を通して、わたしたちの傍らに立ち、危険にさらされるわたしたちのうちに入ってこられました。こうしてイエスは、わたしたちのために道を開いてくださった。わたしたちの遭う誘惑と試練と暗黒を経て、わたしたちが神に近づく道を、イエスは開拓してくださったのです。試練の後に、聖霊の喜びと力が、わたしたちにも用意されています。

大齋節の最初の主日に、主イエスが荒野で過ごされたことを心に刻みたい。そして今日からイースターに至るまでのおよそ40日の大齋節の間、主イエスの道に従う思いをしっかりと持ちたいと願います。

祈ります。

主イエスさま、試練のときにわたしたちとともにいてください。わたしたちの経験する荒れ野をとおしてわたしたちをあなたとひとつにしてください。大齋節をとおしてあなたの苦難を思いつつ、あなたと共に歩むわたしたちにしてください。そうして復活の命と喜びをわたしたちに新しく経験させてください。  
アーメン